

福音の恵み / 反対を乗り越えて

キプロス伝道を終えたパウロとバルナバはパンフリヤのペルガに渡り、さらに北上してピシディアのアンティオキアに進んだ。この町は東のシリアから西の大都会エフェソに至るハイウェイの中継地点にある重要な町であった。

ピシディアのアンティオキアのユダヤ人会堂における使徒パウロの説教は、大勢のユダヤ人や信心深い異邦人改宗者たちの間に熱烈な反応を引き起こした。集会が終わっても彼らはパウロとバルナバについて来て熱心に福音の言葉に耳を傾けた。ふたたび、彼らが引き続き神の恵みにとどまっているようにと、彼らを励ました。

パウロとバルナバのうわさは町中に広がり、次の安息日には、ほとんど全市をあげてパウロの話の聞きに集まって来た、とルカは記している。それは強調のための誇張的表現であるとしても、ユダヤ人の会堂がおびたらしい数の異邦人で占められたということは実に異常な事であった。このことは、ユダヤ教の教えと伝統に反するパウロの説教にいらだちをおぼえていた会堂のユダヤ人指導者たちの反パウロ感情をかき立てた。彼らは、パウロの教えに反対し、その働きを口汚くのし妨害した。

彼らユダヤ人指導者たちにとって、パウロの説く福音、すなわち神の前にはユダヤ人も異邦人の区別はないのであって、ユダヤ人も異邦人も等しく神の前に罪を悔い改め、イエス・キリストの罪の贖いを信じ受け入れることによって救われるというこの教えは、モーセの律法の権威とユダヤ民族の選民としての優位性を否定し、先祖伝来受け継いできた聖なる伝統と教えを否定する異端的教えであり、許すことのできないものだった。

さらにまた、彼らにとって、パウロ一行の宣教活動はユダヤ人コミュニティに分裂をもたらし、一致を乱すものに思われた。事実、後になってユダヤ人たちは、「この男は疫病のような人間で、世界中のユダヤ人の間に騒動を引き起こしている者」であると訴えたことをルカは記している(24:5)。こうして彼らは町の有力な貴婦人たちや重立った人たちを煽動してパウロとバルナバを迫害させ、二人をその地方から追い出した(50節)。

同じことが次の町イコニオンでも起った。ユダヤ人指導者たちは町の役人に訴え、一緒になって反対運動を起こし、使徒たちをはずかしめ、石打ちしようとした。そこでパウロとバルナバはリストラとゲルベの町に逃れねばならなかった。反対派の運動は執拗をきわめ、アンティオキアとイコニオンのユダヤ人たちはリストラまでお甲し掛けて来て、群衆を煽動してパウロを襲い、彼に半死半生の傷を負わせるということまで起った(14:19)。

後になってパウロは、過去の出来事に触れ、弟子のテモテにこう書き送って、彼を励ましている。「しかしあなたはわたしの教え、行動、意図、信仰、寛容、愛、忍耐に倣い、アンティオキア、イコニオン、リストラでわたしにふりかかったような迫害と苦難をいりませんでした。そのような迫害にわたしは耐えました。そして、主がそのすべてからわたしを救い出してくださったのです。キリスト・イエスに結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます。…だがあなたは、自分が学んで確信していることか、離れてはなりません」(第2テモテ3:10-14)。これは今日の私たちに対する使徒パウロの激励の言葉でもある。私たちもまた、いかなる反対があろうとそれに負けず、しっかりと福音に生きる者になりたいと思う。